

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-49964

(43) 公開日 平成8年(1996)2月20日

(51) Int.Cl.⁹

F 2 5 D 23/04

識別記号

H

V

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号

特願平6-185636

(22) 出願日

平成6年(1994)8月8日

(71) 出願人 000006611

株式会社富士通ゼネラル

神奈川県川崎市高津区末長1116番地

(72) 発明者 広江 洋一

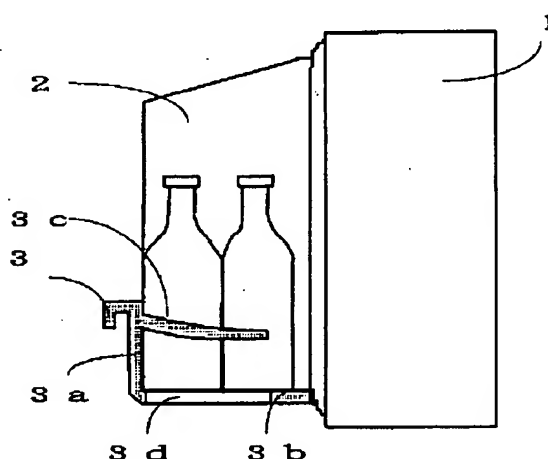
川崎市高津区末長1116番地 株式会社富士
通ゼネラル内

(54) 【発明の名称】 冷蔵庫の扉

(57) 【要約】

【目的】 本発明は、冷蔵庫の扉体のボトルストップの構造に関し、作業工数を削減し、コストダウンした冷蔵庫の扉を提供することを目的とする。

【構成】 扉体1のドアバック2に、垂直面3aと水平面3bを有する略断面L字状の扉棚3の垂直面から後方へ突出しボトルの倒れを防止するためのボトルストップ3cの形状を略三角柱状とし一体的に形成し、同ボトルストップの基端の両側面に略円弧状の曲面を設ける一方、前記扉棚の水平面で前記ボトルストップの直下に、前記ボトルストップの横断面よりも大きい略四角形の金型挿通孔3dを設けてなることを特徴とする。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 本体の前面に開閉自在に枢支された冷蔵庫の扉体であって、同扉体の後部のドアバックに、垂直面と水平面を有する略断面し字状の扉棚が設けられているものにおいて、前記扉棚の垂直面の内面にボトルストッパを一体的に形成してなることを特徴とする冷蔵庫の扉。

【請求項2】 前記ボトルストッパの形状を略三角柱状としてなることを特徴とする請求項1記載の冷蔵庫の扉。

【請求項3】 前記ボトルストッパの基端の両側面に略円弧状の曲面を設けてなることを特徴とする請求項1記載及び請求項2記載の冷蔵庫の扉。

【請求項4】 前記ボトルストッパの突出位置の間隔を、ボトル類の略直径の整数倍としてなることを特徴とする請求項1記載の冷蔵庫の扉。

【請求項5】 前記扉棚の水平面で前記ボトルストッパの直下に、ボトルストッパの横断面よりも大きい略四角形の金型挿通孔を設けてなることを特徴とする請求項1記載の冷蔵庫の扉。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、冷蔵庫の扉に係り、詳しくは扉体の扉棚の構造に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、図5に示すように、冷蔵庫の扉体1のドアバック2にボトル類の収容部を形成し、同収容部の適所に保持バンド3yを設け、同保持バンドにボトルの倒れを防止するためのストッパ3zを摺動自在に装設していた。このため、部品点数が増加し、且つその取付工数も必要であった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 本発明の目的は、上記従来の問題点に鑑みなされたもので、冷蔵庫の扉体の扉棚のボトル類の倒れを防止するストッパを不要とし、部品点数及び工数削減をした冷蔵庫の扉を提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するために、本体の前面に開閉自在に枢支された冷蔵庫の扉体であって、同扉体の後部のドアバックに、垂直面と水平面を有する略断面し字状の扉棚が設けられているものにおいて、前記扉棚の垂直面の内面にボトルストッパを一体的に形成してなることを特徴とする。また、前記ボトルストッパの形状を略三角柱としてなることを特徴とする。そして、前記ボトルストッパの基端の両側面に略円弧状の曲面を設けてなることを特徴とする。更に、前記ボトルストッパの突出位置の間隔を、ボトル類の略直径の整数倍としてなることを特徴とする。一方、前記前記扉棚の水平面でボトルストッパの直下に、ボトルストッ

2

パの横断面よりも大きい略四角形の金型挿通孔を設けてなることを特徴とする。

【0005】

【作用】 上記の構成によれば、本体の前面に開閉自在に枢支された冷蔵庫の扉体であって、同扉体の後部のドアバックに、垂直面と水平面を有する略断面し字状の扉棚が設けられているものにおいて、前記扉棚の垂直面の内面にボトルストッパを一体的に形成し、また、前記ボトルストッパの形状を略三角柱とし、そして、前記ボトルストッパの基端の両側面に略円弧状の曲面を設け、更に、前記ボトルストッパの突出位置の間隔を、ボトル類の略直径の整数倍とする一方、前記扉棚の水平面で前記ボトルストッパの直下に、ボトルストッパの横断面よりも大きい略四角形の金型挿通孔を設けてなるようにしたので、冷蔵庫の扉体の扉棚のボトル類の倒れを防止するストッパを不要とすることができる。

【0006】

【実施例】 本発明の実施例を添付図面を参照して詳細に説明する。なお、従来例と同じ部分の符号は同一とする。

図1に示すように、扉体1のドアバック2に、垂直面3aと水平面3bを有する略断面し字形の扉棚3を設ける。ここで、同扉棚の垂直面の内面に後方へ突出しボトルの倒れを防止するためのボトルストッパ3cを一体的に形成した。また、図2、図3及び図3のAA'断面図の図4に示すように、前記ボトルストッパの形状を略三角柱状とし形成している。そして、前記ボトルストッパの基端の両側面に略円弧状の曲面を設けている。これは、ボトルとボトルストッパの密着を良くするためである。更に、前記ボトルストッパの突出位置の間隔を、ボトル類の略直径の整数倍としている。一方、前記扉棚の水平面で前記ボトルストッパの直下に、ボトルストッパの横断面よりも大きい略四角形の金型挿通孔3dを設けている。これは、前記ボトルストッパを一体的に形成するために必要である。

【0007】

【発明の効果】 以上のように、本発明においては、本体の前面に開閉自在に枢支された冷蔵庫の扉体であって、同扉体の後部のドアバックに、垂直面と水平面を有する略断面し字状の扉棚が設けられているものにおいて、前記扉棚の垂直面の内面にボトルストッパを一体的に形成し、また、前記ボトルストッパの形状を略三角柱とし、そして、前記ボトルストッパの基端の両側面に略円弧状の曲面を設け、更に、前記ボトルストッパの突出位置の間隔を、ボトル類の略直径の整数倍とする一方、前記扉棚の水平面で前記ボトルストッパの直下に、ボトルストッパの横断面よりも大きい略四角形の金型挿通孔を設けてなるようにしたので、ボトル類の倒れを防止するストッパを不要とし、冷蔵庫の扉の部品点数及び工数削減をすることができ、この結果、作業効率に優れ、コストダウンした冷蔵庫の扉を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す冷蔵庫の扉の断面図である。

【図2】本発明の一実施例を示す冷蔵庫の扉の扉棚の要部平面図である。

【図3】図2における扉棚の水平面形状を示す要部平面図である。

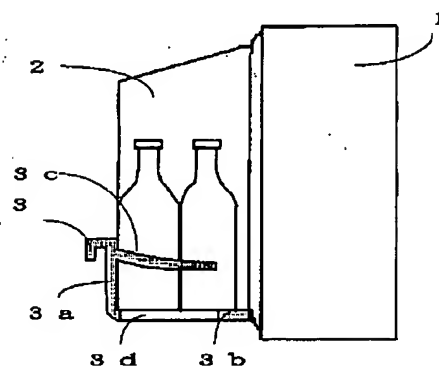
【図4】図3におけるAA'断面図である。

【図5】従来の冷蔵庫の扉の断面図である。

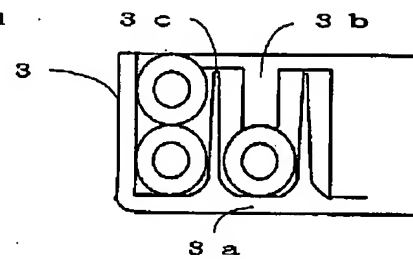
【符号の説明】

- 1 扉体
- 2 ドアバック
- 3 扉棚
- 3a 垂直面
- 3b 水平面
- 3c ボトルストッパ
- 3d 金型挿通孔

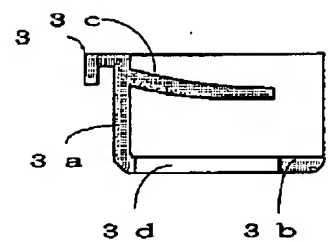
【図1】



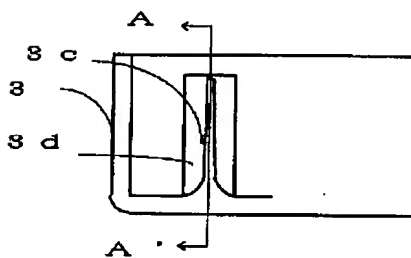
【図2】



【図4】



【図3】



【図5】

